

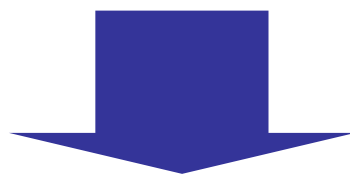
## 4. 財務分析指標

### (2) 安全性分析

(単位：％、千円、倍、回)

		平成17年度3月期	平成18年度3月期	前年対比	標準値	差異
安全性	流動比率(%)	70.8%	87.3%	123.2%	143.5%	-56.2%
	当座比率(%)	61.0%	78.9%	129.5%	114.6%	-35.7%
	固定比率(%)	415.3%	230.7%	55.5%	170.8%	59.9%
	固定長期適合率(%)	150.2%	121.7%	81.0%	71.9%	49.8%
	自己資本率(%)	13.2%	19.4%	147.7%	25.6%	-6.2%

標準値はTKC BAST 建設用金属製品製造業の黒字企業平均値



経営指標	判定	コメント
安全性	流動比率(%)	C 短期的な債務返済能力は低い水準です。入金と支払のタイミングによっては、資金ショートが起きることもあり得ます。
	当座比率(%)	C 短期的に換金可能な債務返済能力は低い水準です。
	固定比率(%)	C 固定比率が高すぎることは、借入金での調達が多いことを示し、安全性が低いといえます。
	固定長期適合率(%)	C 極めて安全性が低いといえます。100%を上回るということは、固定資産の調達に必要な資金が、自己資本と固定負債とでは足りず、短期借入金まで使っていることを意味します。
	自己資本率(%)	C 返済期限があり、支払利息などのコストがかかる他人資本の比率が高くなり、経営の自由度が狭まる事になります。